

# おおくま

福島県大熊町  
議会だより

2023  
令和5年  
8月1日発行 No.66

題 字：西山 <sup>かよこ</sup>香代子さん（夫沢）



子ども達と先生のイチゴ摘み取り体験（ネクサスファームおおくま）

6月  
定例会

補正予算の概要 ..... ②

今年度工事に着手する町内のため池 ..... ④

町政を問う 一般質問 ..... ⑤

サークル紹介 武扇・ひまわり会 ..... ⑫



スマートフォン  
でも見られます

## 20議案を議決

### 定例会のあらまし

令和5年第2回定例会は6月7日から9日までの3日間で開催されました。

第1日目に町長より専決処分、条例制定および改正工事請負契約および変更、町道路線の認定、令和5年度一般会計補正予算など20議案が提案されました。

第2日目は4人が一般質問を行い、復興の課題や新たな町づくりの提案などを取り上げ、町民第一主義の視点から熱く町政をただしました。

最終日の本会議では令和5年度一般会計補正予算など、全議案とも原案通り可決し閉会しました。

なお、今回の傍聴者は延べ17人でした。

# 物価高騰による給付金を支給

## 戸別受信機購入



防災行政無線の戸別受信機を、帰還する町民や移住者、町内の事業所に設置できるよう追加購入します。

763万円

## 一般会計補正予算

今回の補正では、各種業務委託・工事請負、備品購入、施設整備のための基金積立や選挙費用等が計上されました。また物価高騰による緊急支援給付金が計上されました。

## 価格高騰緊急支援給付金支給事業

8581万円

電気・ガス・食料品等の価格が高騰しているため住民税非課税世帯に対し、1世帯3万円が給付金として支給されます。

## ため池改修工事



1400万円

寺屋敷ため池の土砂を排出するゲートが操作不能のため復旧工事をします。併せて作業用道路の亀裂、陥没の修復工事をします。



## ため池ハザードマップ作成委託

360万円

大川原地区の道平ため池が「防災重要農業用ため池」に指定されたため、避難場所や避難経路等を記載したハザードマップを作成します。(写真はイメージです)

(万円未満四捨五入)

# 農業用水利の確保のため 放射性物質を除去



放射性物質をしっかりと取り除きます

**第2回定例会にて令和5年度補正予算の審議をおこないました。その中から主な質疑内容を報告します。**

## ため池放射性物質 対策工事

**問** 今回工事契約する5力所のため池を選定した理由は。

**答** 避難指示が解除された地区の水稻栽培に必要な農業用水利を確保するため、また震災により災害復旧工事が必要で下流域の住宅地

に影響の恐れがある、ため池を選定した。

**問** 対策工事の終了後継続して放射性物質の計測を行う予定はあるのか。

**答** 令和元年の台風19号の際に近隣町で再度流入した例があるので状況に応じ検討していく。

**問** ポンプ浚渫工法とはどのような工法なのか。

**答** 水中ポンプで堆積した放射性物質を含む泥を吸い上げる。

その後、凝集剤を用いて泥と水を分離後、水は安全性を確認し放流する。

## ため池改修工事

**問** 寺屋敷ため池災害復旧工事進入路の補修が必要との補正予算計上だが工事請負業者の

対策不備であれば負担を求めるべきでは。

**答** 事前に道路状況を調査していたが、大きな損傷は確認されなかった。

工事請負業者も鋼板を引くなどの対策を実施していたが、今年になり陥没等の事例が発生したので町で補修工事を実施する。

## 防災無線受信機

**問** 町内には受信状況が悪いエリアがあり、

災害発生時に避難情報等が届かない可能性がある

があるので、町内全域を調査すべきではないか。

**答** 場所や建物の構造等により受信状態が良くない所があるので屋外アンテナで対応可能か調査する。

## 国民健康保険税

**問** 令和5年度も全額減免となるのか。

**答** 全額減免となる。

ただし中屋敷、大川原地区の上位所得層（基準所得600万円越え）は通常課税となる。

また令和4年6月に避難指示が解除された地区の上位所得層は今年度2分の1課税となり、令和6年度からは通常課税となる。

## 価格高騰緊急支援 給付金

**問** 給付金の対象世帯はどのように選定したのか。

**答** 令和5年度の住民税が課税されていない世帯および家計急変世帯を対象とし、2500世帯を想定して予算計上した。

## 森林環境税

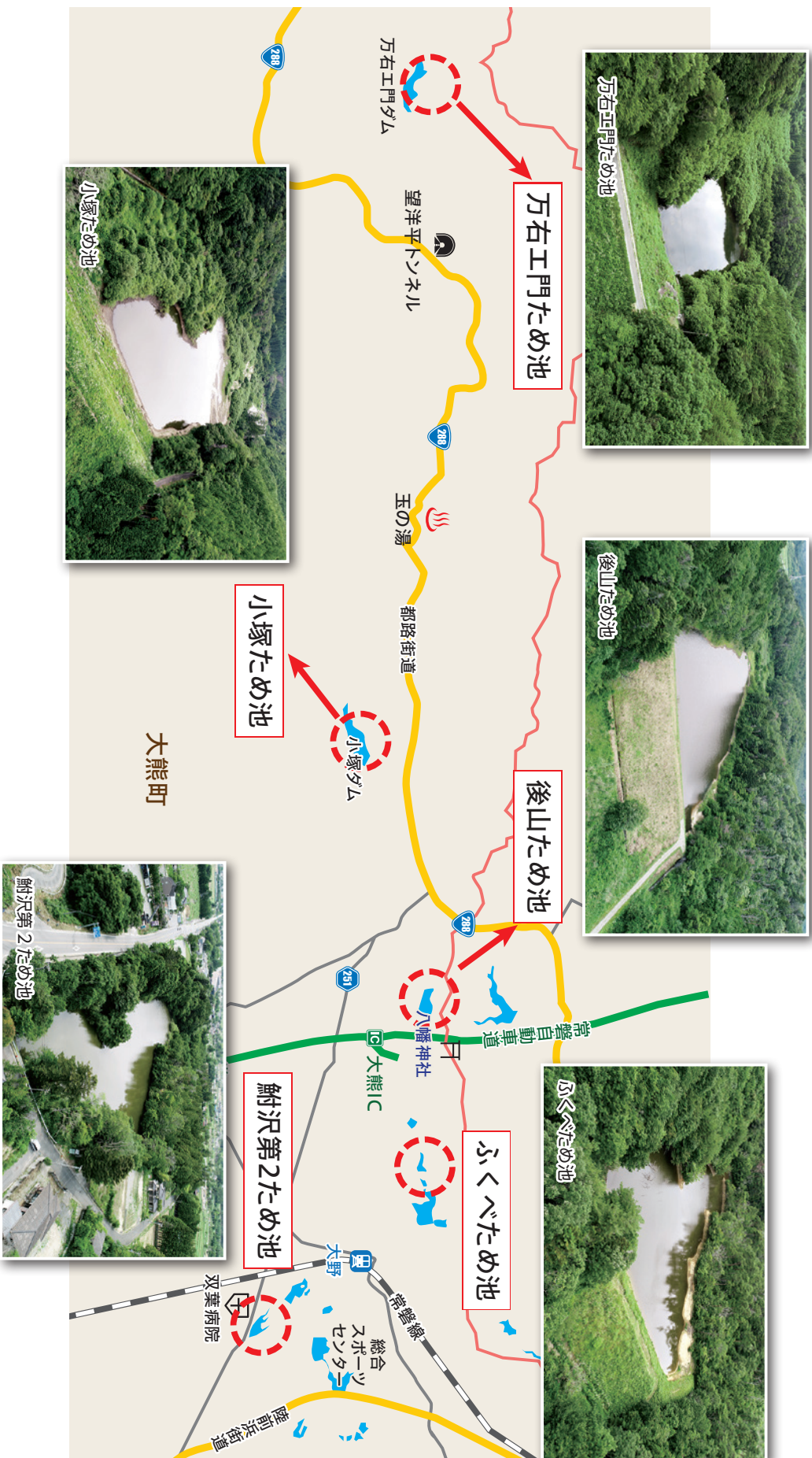
**問** 令和6年度より国による課税となるのか。

**答** 国と県の2種類の課税となる。

町は現在所得額300万円以下の世帯を全額免除しているが、令和6年度より1千円の課税となる。

# 今年度工事に着手する町内のため池

本定例会で議決された工事請負契約のため池5か所を紹介します。





**福島県町村議会議長  
会から5人が表彰**

地方自治の振興発展、住民福祉の向上に功績があった吉岡健太郎議員、千葉幸生議員、仲野剛議員に特別功労、廣嶋公治議員、阿部光國議員に自治功労章が贈られました。  
左から 仲野議員、千葉議員、吉岡議員、廣嶋議員、阿部議員

**4人が一般質問**

**ズバリ  
町政を問う  
復興への課題をとらえて**

1. 西山英壽議員 6  
町民の要望に応じた事業を  
図書カードの配布を  
課程外活動に支援を  
給付型奨学資金に一般財源投入を
2. 石井和弘議員 7  
子ども達が安全に遊べる公園整備を
3. 佐藤照彦議員 8  
蓄電池設備の導入を  
男性用トイレにサンタリーボックスの設置を
4. 渡辺誠議員 9  
運転免許自主返納者に町で支援すべき  
町政懇談会、土日開催など参加促す工夫を

西山 英壽 議員



## 問 町民の要望に応じた事業を

## 答 充実にしっかり取り組む

**西山** 町では全町民への幅広い社会教育事業が実施されていない状態である。

そこで町民の要望に応じ、直接出向いて行う、出張出前講座や各種教室、講習会、講演会をはじめ体育およびレクリエーション等の現状でも実施可能な事業の実施を提案する。今後、社会教育の振興に寄与すべく努めなければならない。

**教育長** 社会教育アンケート、ワークショップ、社会教育団体等のヒアリング結果に加え町民ニーズの確な把握に努め、社会教育事業の充実にしっかり取り組みたいと考えている。

### 読書の町

## 問 図書カードの配布を

## 答 配布は考えていない

**西山** 読書の町の伝統も町民には薄れてきていると思う。

そこで読書の町の認識を復活し、活動を推進すべく、町民が図書に触れる機会を提供するため、図書カードを配布することを提案する。

**教育長** 図書カードの配布はせず、今後、町の読書活動推進事業の中で提案目的を果たしたい。

避難先に図書館はあり誰でも利用できる中で、読書の機会の平等性は保たれていると考える。

多くの町民は避難中であるので、読書の町の活動への参加を促すため、全町民に平等に読書の機会を提供すべしと考える。



### 教育支援

## 問 課程外活動に支援を

## 答 実施するのは困難

**西山** 町は小中高生の部活動を含む学校教育

課程外の活動への支援策はない。

そこで学校教育課程外活動で経費がかかる子ども達に、それぞれの得意分野で存分に力を発揮できるよう、町独自の「学び活動応援金給付制度」の新設を提案する。

新設による教育支援により、個性や才能を

伸ばす機会を提供し、未来を担う子ども達を応援すべき。

**教育長** 学校教育課程外への支援となると、活動実態を全て正確に把握し、公正な支援を実施するのは困難と考える。

### 給付型奨学資金

## 問 一般財源投入を

## 答 検討を進めたい

**西山** 町給付型奨学資金は寄付金で賄っており、原資に限りがあり資格要件を満たしていても受給できない学生が多く出る。

そこで町給付型奨学資金の原資を寄付金に頼らず一般財源を投入して、学びたい意欲を重要視した、新制度の創設を提案する。

く、一人でも多くの子ども達に学ぶ機会を与えるため、新制度を設けるべき。

**教育長** 給付型奨学資金検討委員会にて、一般会計での予算措置を含め検討を進めたいと考えている。

学びを諦めること無

石井 和弘 議員



## 問 子ども達が安全に遊べる公園を

### 答 安全に遊べる広場を検討する

**石井** 始まりの式から約2ヶ月が過ぎようとしている。その間、仮の学び舎である役場等に通学する子ども達は元氣いっぱいに通学しており、子ども達の笑顔や笑い声は、周辺に居住している方々にも受け入れられ、活気と元氣が戻ってきた。との声も聞こえる。

震災前は、子ども達が多く居住している住宅地周辺や学校周辺には公園が整備されており、放課後や休日に利用する子ども達や家族の姿があった。

今後、下野上地区一団地事業の中で駅西交流エリアや大野南、原住宅エリア等には公園整備も計画に入っているが、これらはまだ先の計画である。新教育施設完成後は子育て支援住宅等から通学することを考えるならば、

学校周辺にも公園整備が必要ではないか。

例えば再生賃貸住宅南側や現在建設事務所が立地しているエリア等が通学路周辺でもあること、居住エリアからも近いことから公園整備には適した場所ではないかと考える。

放課後になると、居住しているエリア周辺には、子ども達が外で安全に遊べる場所が殆どない。親御さんとしても、道路で遊んで良いたとは教育上ももちろん言えるわけもなくむしろ危険である。

未就学児から9年生まで幅広く利用ができる遊具があり、自転車等も利用できるサイクリングロードや、また近隣住民の方々も利用できるような公園が整備されれば、子ども達と家族が安心して外で遊ぶことができ、住民

とのふれあいも増え素敵な空間となるのではないかと考える。

以上のことから、先に例を挙げたエリアへ子ども達が外で安全に遊べる公園を整備してはどうか。

**町長** 現在、大川原地区には役場や商業施設医療・福祉施設、交流施設、公営住宅などが整備されており、さらに、今年の夏には教育施設が完成する予定となっているが、子ども達が日常的に遊ぶような公園はまだ整備されていない。

頭森公園や役場前の広場についても、緑地などはあるが、遊具などは設置されておらずまた、自転車を利用できるまでの広さはない。お質しのとおり大川原地区復興拠点には、



安全に遊べる公園がほしいなあ

教育施設工事の現場事務所として使用されている、約1畝の特定公益的施設用地がある。

復興拠点では、各施設の建設が進み、この1畝は、その中で唯一残された土地であることから、ただいまご提案のように通常時は、子どもが安全に遊べる広場としながら、また災害時には避難場所として利用できる広場とする。

今年秋には新しい教育施設で町内の教育がスタートし、さらに児童・生徒の増加を図るため、復興拠点および大川原地区、町全体を見て、必要な施設と何か、有効な活用方法を検討していくので協力と理解をお願いします。

するなどを含め、しっかりと検討していきたい。

佐藤 照彦 議員



## 問 蓄電池設備の導入を

## 答 蓄電池を積極的に活用していく

ゼロカーボン

**佐藤** 町は2040年までのゼロカーボン社会実現を目指し新しい町づくり構想を描いている。町のゼロカーボン達成の鍵となるのは、蓄電池を合わせて配置すべきと考える。災害時においても安定的な電力供給を担保するためには蓄電池の設置が効果的と考える。次世代型太陽光発電により時代二ノズに合った発電を行うとともに災害時や悪天候等により発電量が変動するリスクへの対応として、安定的な電力供給や非常時の



非常時の備えに

**町長** 大熊町ゼロカーボンビジョンでは「2040年のゼロカーボン達成」に向け、太陽光発電を60メガワット導入するという目標を掲げている。下野上地区のスマートコミュニティ計画では、1.8メガワットの大規模太陽光発電に合わせ、4メガワットの

規模蓄電池を設置することとしており、これにより駅西口のエリアにおいては、太陽光発電によるクリーンな電力の安定供給が可能となる計画である。加えて、下野上地区に新た

に整備する公営住宅では、蓄電池を含めたZEHによる住宅整備を計画している。新たに整備する公共施設等については、太陽光などの再生エネルギーの導入に併せ、蓄電池を積極的

に活用し、これらをエネルギーマネジメントシステムで制御することにより、環境配慮と災害時対応の強化を図っていく。

### 男性用トイレ

## 問 サニタリーボックスの設置を

## 答 早急に設置を進めていく

**佐藤** 高齢者の中には病気のため日常生活においても尿意を感じる頻度が増え、尿漏れを防ぐためにおむつや尿漏れパッドで対応する

のが一般的になっていく。全国的に男性用トイレのサニタリーボックス設置の声が上がっており、都市部などでは設置が広がっている。そこで大熊町役場庁舎をはじめ、各施設の男性用トイレにサニタリー

ボックスを設置し、尿漏れパッドなどを必要とする方にも配慮した施設とすべきと考える。一ボックスを設置し、尿漏れパッドなどを必要とする方にも配慮した施設とすべきと考える。みが全国的に広がっている。

**町長** 前立腺がんなどの病気治療の影響や加齢により、おむつや尿漏れパッドを使用している方などに配慮した環境づくりのために、公共施設内の男性用トイレにサニタリーボックスを設置する取り組みを進めていく。

町において、おむつや尿漏れパッドを使用している方が安心してトイレを利用できるように早急にサニタリーボックスの設置を進めていく。

ボックスを設置する取り組みを進めていく。

公共施設内の男性用トイレにサニタリーボックスを設置する取り組みを進めていく。

公共施設内の男性用トイレにサニタリーボックスを設置する取り組みを進めていく。



渡辺 誠議員



運転免許証

## 問 自主返納者に町で支援すべき

## 答 サービス提供は困難である

**渡辺** 高齢運転者による交通事故が依然として後を絶たない。事故抑止に向け運転免許の自主返納者に町として支援すべきと考える。県内では約8割の自治体が支援策を講じているが、町にはまだ支援がない。そこで、代替の交通手段の提供としてタクシーはじめ公共交通機関の利用料金を年間、あるいは月の上限を決め補助することを提案する。領収書で清算すれば避難先でも安心して利用できる。交通事故は被害者、加害者双方にとって大きな痛手である。また家族など周りの人たちにも何かと負担がかかる。

**町長** 町内では無料の生活循環バスを運行し運転免許自主返納者だけでなく誰でも無料で利用が可能である。町外でのサービスについては避難先自治体独自のサービスを受けられないところがある。そのために町が全国のバス会社やタクシー会社と提携しサービスを提供するのは実質的に困難である。また利用補助の領収書の清算は、利用者が自主返納者本人であるかの確認が難しく、慎重に検討する必要がある。

**渡辺** 令和3年度の町政懇談会は県内外8会場で開催し131人が参加。4年度は県内外7会場で88人が参加した。このうち土日開催は3回だけだが、参加人数は平日に比べ圧倒的に多かった。5月に新型コロナウイルスが季節性インフルエンザ並みの5類に移行になった。そこで油断はできないものの一人でも多くの町民が参加できるように土日開催の推進をはじめ、開催要望のある地区に出向くなりさらには開催場所の地域で避難生活を送っている方にダイレクトメールで参加を促すなど工夫してはどうか。

**町長** 町でも多くの町民の方に参加していた。ただ、開催時期や時間、参加方法を検討して実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり参加者が伸び悩んでいるのが現状である。一方で、感染防止に関する規制も緩和され、各行政区で総会などが開催されるようになってきた。これら総会や避難先で設立されたコミュニティ団体の会合などに積極的に参加し、町民の声を直接伺う機会を設けていきたい。

### 町政懇談会

## 問 土日開催の推進など参加促す工夫を

## 答 今後土日を中心に対応していきたい

いずれにしろ町政懇談会は重要かつ必要な施策と理解している。土日の開催は平日より参加人数が多いのは確かであり、今後土日を中心に対応していきたい。



多くの町民が参加できる工夫を

# テラスや屋上庭園も整備

4月17日委員会を開催し、所管事務調査を行いました。  
 主な内容を報告します。

## 産業交流施設

産業交流施設は地上3階建てで、1階にホールと会議室を設け、東側に機械室を配置する設計となっている。

2階は貸事務所とコワーキングスペースなどオフィスビルの機能を備える。

3階には貸事務所の他、テラスや屋上庭園



1階ホールの全景

を整備するとの説明がありました。

委員からは産業交流施設は、公共施設であるため町民の皆さんが気軽に利用しやすい施設を整備すべきである。また、施設利用者やイベントに参加する人の駐車場を確保すべきとの意見がありました。



100名ほどのイベントにも利用できます

# ドックの検査費用を一部助成

4月19日委員会を開催し、所管事務調査を行いました。  
 主な内容を報告します。

## 人間ドック等助成

保健衛生関係事業のうち健康増進について調査を行いました。

今年度より人間ドック、脳ドックの助成を開始する。助成対象者は条件があるが、該当すれば検査費用の一部を助成する。助成金額は人間ドックについては受診費用を助成（上限4万5千円）、脳ドックについては受診費用の2分の1を助成（上限3万円）するとの説明がありました。

## 商業施設

大川原商業施設について調査を行いました。現在の空き店舗については、入居者の公募に向け関係機関と協議中であり、条件等が確定次第公募を開始する。補助については、他店同様、令和7年度末を最終とするとの説明がありました。

委員からは、早急に新たな入居者を決定すること。また、補助期間終了後、現在の出店者が退店しないような仕組みについても検討しておくべきとの意見がありました。

委員からは、新規事業であることから、町民へ分かりやすく周知すべきとの意見がありました。

# 町内の廃棄物を先行搬入

5月25日の全員協議会にて環境省よりクリーンセンターふたばへの廃棄物の搬入再開について説明がありました。説明要旨と主な質疑について報告します。

## 説明要旨

小入野地区にあるクリーンセンターふたばは、郡内の一般廃棄物と産業廃棄物等の埋立てを行っていたが、震災によって休止していた。

現在は富岡町の旧工コテックで最終処分を行っている。

処分期間は2027



搬入を再開したクリーンセンターふたば

年までの予定で将来的

な処分先の確保、加えて復興拠点区域のインフラ整備事業等に伴う廃棄物の処分先の確保が新たな課題になっていた。

このため双葉地方広域市町村圏組合、県、環境省は2019年8月、基本協定を締結しクリーンセンターふた

ばの活用を確認した。

施設の復旧と2期埋立地の造成工事が完了し、6月1日から廃棄物の搬入を開始する。今年度の受け入れについては大熊町の負担に配慮し、町内に保管

されている廃棄物を先行搬入していく考えである。

## 主な質疑の内容

**問** さまざまな廃棄物が搬入されるが、今後の運営については環境省、組合どちらが管理していくのか。

**答** 復興拠点から出る特定廃棄物については環境省だが、生活ゴミなども同じ所で処分するので協議しながら運営していく。

4月24日、東京電力福島第一原子力発電所を視察し、処理水を放出する海底トンネルの工事の進捗状況などの説明を受けました。視察の状況を報告します。

## 視察報告

構内の放射性物質を含む処理水を保管するタンク群を横目に通過すると、廃炉作業が進む1から4号機建屋が目に飛び込んでくる。

それらを見渡せる工

リアで降車し、双葉町側に建つ5、6号機に目をやる。その付近から海底の岩盤をくり抜いた海底トンネルの建設工事が進められている。間もなく完成することを目指す。

予定だ。

処理水を貯蔵できる量は最大137万立方メートル。現在133万立方メートルに及ぶ。処理水は大量の海水で濃度を薄め沖合1キロ先で放出されるという。

これから長く続く廃炉作業、処理水放出に新たな風評が懸念される。この風評を薄めるために今後も情報発信と理解醸成に努めることを求めた。



廃炉の進捗を確認

# 明るく元気にひまわりのように 武扇・ひまわり会



毎月楽しく踊っています

踊ることが大好きな仲間が集まりました。  
月2回役場いわき出張所をお借りして練習をしています。  
最近入会された方もおり、随時会員を募集してます。  
年を重ねると踊りを覚えることも大変で、時折脳トレかなと思うこともしばしばです。  
会員一同、明るく、元気に、ひまわりのように活動しています。

代表 根本 友子 (☎090-2270-4504)

## 傍聴に来てください 9月定例会は7日からの予定です

### 編集後記

12年ぶりに町内に学校が再開しました。入園、入学する子どもは26名と少ないですが、町内で子どもたちの声が聞こえることは大変嬉しいことです。

当町は震災後まもなく会津若松市内の廃校になった校舎を借り、多くの皆様のご支援をいただき、充実した教育を継続することができました。

震災直後には幼小中で700名が通っていましたが、避難生活の長期化や家庭の事情により会津若松市での子ども達は減ってしまいました。

お世話になった会津若松市は、かつて戊辰戦争でふるさとを離れ、やがては地元に戻り、素晴らしい町を復興させました。

町づくりは人づくりといわれます。大熊町の学校で育った子ども達が、将来町の復興に携わってくださることを願うと共に、社会から必要とされる人材になってくれることを望みます。

阿部 光國

### 広報公聴常任委員会

委員長	佐藤 照彦
副委員長	渡辺 誠
委員	石井 和弘
委員	島原 健二
委員	西山 英壽
委員	阿部 光國
委員	廣嶋 公治
発行責任者	吉岡 健太郎